

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1757

31 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: Report on official tour of SIAM, BURMA and Japan's occupied territory made by the Japanese Finance Ministry, Foreign Resources Bureau.

Date: Feb 1944 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No
Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable) as of:

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Commerce and Industry Ministry

PERSONS IMPLICATED: MIYAKAWA, TSUBOUCHI

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Mimeographed book published by the Finance Ministry Foreign Resources Bureau in February, 1944 by MIYAKAWA, who made an official tour of SIAM, BURMA AND South Asiatic territories occupied by Japan to (1) make arrangements about Japan's war expenses in SIAM; (2) make arrangements about Northern Malayan currency; (3) arrange matters about monetary circulation in Japanese occupied territories; (4) make an inspection of the above mentioned districts.

Most of the reports are objective descriptions as to the status quo of the districts mentioned.

/pp. 13-21/ "War expenses of Japanese forces stationed in SIAM for fiscal year 1943." /See "(1)"/

A. First six months of fiscal year 1943.

1. Balance carried over from previous account Y26,000,000. Money to be raised - Y18,000,000.
2. Method of settling accounts.

One half is to be paid in special yen and one half to be paid in gold.

B. Second six months of fiscal year 1943.

1. Agreement between Japanese Ambassador TSUBOUCHI and the Siamese Foreign Minister.

(a) "Siam recognizes the general principle that war expenses shall be accounted for with special yen."

Doc. No. 1757

Page 1

(b) "Siam will supply Japan with Y60,000,000 for war expenses for the second six months /fiscal year 1943/."

2. Negotiations for supplementary war expenses.

(a) Japan needed Y143,200,000 in this period.

(b) On 29 October 1943 an agreement was reached between TSUBOUCHI and the Siamese Foreign Minister as to the raising of a Y83,200,000 shortage.

C. Japanese war expenses in the first six months of the fiscal year 1944 were Y480,000 for the navy and Y2,270,000 for the army, which was to be paid for by Siam. Items of expenses included:

Siam-Burma railway construction	Y 500,000
Isthmus of Kra railroad construction	Y 200,000
Airports and road construction	Y 370,000
Wooden ship construction	Y 150,000
Others	<u>Y1,050,000</u>
Total	Y2,750,000

/p. 89/ Disposition of enemy property (utilized by Japan).

Oil	Y 2,400,000
Communication facilities	Y 1,500,000
Forestry and agriculture	Y 4,000,000
Mining	Y 900,000
Water, gas and electricity	Y 350,000
Foodstuffs	Y 300,000
Commerce	Y 250,000
Property and houses	<u>Y 55,000,000</u>
Total	Y 15,000,000

These figures were broken down into areas as follows:

Malay	Y 3,800,000
Sumatra	Y 3,500,000
Java	Y 4,500,000
Burma	Y 2,800,000
North Borneo	Y 400,000
	<u>Y 15,000,000</u>

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 1757

TITLE: Report on official tour of SIAM, BURMA and Japan's occupied
territory made by the Japanese Finance Ministry, Foreign
Resources Bureau. *Table of Contents*

SOURCE: Commerce and Industry Ministry

MICROFILMING

Document 1757 Source: Commerce and Industry Ministry
has been microfilmed on 21 Oct 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

Yponome

Ex # 1757

極秘

42

昭和十九年二月

緬甸及南方占領地域出張報告書

Proj. No.	<u>140</u>
S. A. No.	<u>15033</u>
Sack No.	<u>33</u>
Item No.	<u>48</u>

大藏省外資局

官川事務官

48

1757

目次

第一	日程	一頁
第二	泰國	四頁
(一)	概況	四頁
一	財政	四頁
二	金融	五頁
(一)	通貨	五頁
(二)	金融	六頁
(三)	物價	八頁
(二)	軍費調達交渉問題	一三頁
(別紙)	(別紙)	
	軍費調達交渉ニ關スル日泰間在復書簡	一七頁
(三)	新割讓馬來北部四州通貨處理問題	二二頁

(別紙)

「マライ」四州及「シヤン」二州ノ通貨金融處理要領……………二五

第三

緬甸國……………二九

(一)

一般情況……………二九

(二)

財政……………三〇

(三)

金融……………三三

第四

南方占領地域總括……………三七

(一)

治安……………三七

(二)

財政……………三八

一、昭和十八年度軍政會計豫算……………三八

(一) 昭和十八年度軍政會計歲入歲出豫算表……………三九

(二) 歲入關係……………四四

(三) 歲出關係……………五三

二 昭和十九年度軍政會計豫算……………六一

(一) 編成方針……………六一

(二) 豫算概要……………六三

三 財政協力問題……………六九

四 租稅制度……………六九

(三) 金融……………七二

一 通貨……………七二

二 物價……………七七

(一) 概況……………七七

(二) 對策……………八四

三 南方開發金庫、一般銀行融資分野問題……………八五

(附)

南方占領地域金融機關概況……………八七

	(四) 敵産處理	八九
	(五) 産業開發	九二
	一 農 業	九二
	(一) 食 糧	九二
	(二) ゴ ム	九三
	(三) 砂 糖	九四
	(四) パーラムコブラ	九四
	(五) 規 那	九五
	(六) 棉 花	九五
	(七) 茶、コーヒー、ココア	九六
	二 工 業	九七
	(一) 製鐵業	九七
	(二) 木造船	九八

	(三)セメント	九
	(四)苛性ソーダ	九
	(五)纖維製品	〇
	(六)紙	〇
	(七)其他	一
三	鑛業	一
第五	馬來	三
(一)	治安	三
(二)	食糧問題	三
(三)	物價及物資對策	四
(四)	産業開發	六
	一 國防資源	六
	二 過剩特産資源	六

三 現地自活工業 一〇七

(五) 勞務問題 一〇七

第六 又又下步 一〇八

(一) 食糧問題 一一〇

(二) 金融 一一〇

一 弗盾打歩問題 一一〇

二 庶民金融 一一〇

三 産金現地賣却問題 一一二

(三) エステート經營問題 一一三

(四) 中部スマトラ横斷鐵道建設 一一四

第七 爪哇 一一六

(一) 南方圈兵站基地トシテノ施策 一一八

一 食糧並ニ農産物ノ増産 一一八

二 現地自活工業ノ擴充 一一八

三 勞務ノ供出 一一九

..... 一一九

四 木造船ノ建造…………… 一一〇

(二) 敵産企業經營形態ノ改變…………… 一一〇

(三) 教育ノ普及發興…………… 一一一

第八結語…………… 一一一

第一、日程

泰國ニ於ケル我方所要軍費調達問題及ビ新割讓馬來北部四州通官
處理問題ニ關スル打台竝ニ南方占領地域ニ於ケル財政金融業務ニ
關スル打台及ビ視察ノ爲、約一ヶ月ノ豫定ヲ以テ泰、緬甸國、馬
來、スマトラ、爪哇、セレベス、比島ニ出張ヲ命ゼラレタル處飛
機ノ都合意ニ任セズ、豫定期間ヲ經過シ爪哇ニ於テ歸朝命令ニ接
シタルヲ以テ爾後ノ視察ヲ割愛シ昭南經由一踏歸任ノ途ニ就クベ
ク昭南ニ歸着セル處、飛機搭乘ニ關シ八方手ヲ盡セシモ專志ト運
ヒ長期ニ亘リ昭南ニ滞在スルノ止ムヲ得ザルニ至リタリ
旅行日程ヲ示セバ左表ノ如シ

至自				一	至自					一〇、二九	日 程
一	四	三	二	一	三二	二	二	二	二〇	九	
四五	四	三	二	一	一四	三	二	一	〇		
	盤 谷	ラン グー ン		盤 谷		西 貢	廣 東	福 岡		東 京	發
	昭 南	盤 谷		ラン グー ン		盤 谷	西 貢	廣 東	福 岡		着
昭 南	昭 南	盤 谷	ラン グー ン	ラン グー ン	盤 谷	盤 谷	西 貢	廣 東	福 岡		滯 在
				至自							日 程
三二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	
〇九	八	七	六	五〇	九	八	七	六	六	五	
	バ タ ン	ヴ キ チ ン ギ			バ タ ン シ デ ン	チ ガ ラ ス フ ラ バ ツ ト	プ ラ ス タ ギ	メ ダ ン	昭 南		發
	昭 南	バ タ ン			ヴ キ チ ン ギ	バ タ ン シ デ ン	チ ガ ラ ス フ ラ バ ツ ト	プ ラ ス タ ギ			着
昭 南	昭 南	バ タ ン	バ タ ン	ヴ キ チ ン ギ	ヴ キ チ ン ギ	バ タ ン シ デ ン	チ ガ ラ ス フ ラ バ ツ ト	プ ラ ス タ ギ	メ ダ ン		滯 在

至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目	至目
一五	一一四一	一〇	九	八九	八	七	六	五四	三	二	一	一
臺		西	昭		ジャカルタ	バンドン	ジャカルタ		パレンバン			昭
北		貢	南									南
福		臺	西		昭	ジャカルタ	バンドン		ジャカルタ			パレンバン
岡		北	貢		南							南
	臺	臺	西	昭	昭	ジャカルタ	バンドン	ジャカルタ	ジャカルタ	パレンバン		パレンバン
	北	北	貢	南	南							
										一六		一五
												福
												岡
										東		
										京		

第二、泰 國

(一) 概 況

一、財 政

戰前約一億銖ヲ以テ收支均衡セルガ一昨々年佛印問題發生以來惡化、十八年度豫算ニ於テハ一般會計一四八百万銖特別會計一二九百万銖計二七五百万銖（内國防費九七百万銖行政支出一〇七百万銖、官營事業並ニ一般產婆助成費七百万銖）ニシテ國防費ハ總額ノ三割四分ヲ占メ戰時財政ノ特色ヲ示セリ之ニ對シ歲入ハ一四八百万銖ニシテ其ノ根幹ヲ爲スモノハ關稅、消費稅、鐵道運費ナルガ特別會計歲出ニ見合フベキ財源無ク結局一二九百万銖ノ赤字財政ナリ（但シ資金、資材關係ヨリ相當壓縮ヲ見ルベク實際ハソレ程赤字ハナラザルベシトノ意見有之）

而シテ赤字補頓ノ方法トシテハ

國庫豫備金ニ余力無ク増税ノ余地少キ今日結局公債發行ニ依
ラザルヲ得ズ、公債不消化ニ依ル財政インフレノ懸念渺シト
セズ依ツテ目下公債消化ニ全力ヲ盡シツツアルモノ、如シ即
チ六月金公債三千万銖ヲ發行シ拜金思想旺盛ナル國民性ヲ狙
ヒ消化ヲ圖ルト共ニ非常時信用統制令ヲ施行シ銀行、保險會
社ニ對シ一定額ノ保有ヲ強制スルノ措置ヲ採レリ
然シ乍ラ公債ノ消化狀況ハ昏シカラズ金公債ノ如キモ正金保
有分五百万銖ヲ併セ僅カニ二千四百万銖ニ過ギザル趣ナリ

ニ金融

(一) 通貨

現在唯一ノ法定通貨タル銖ハ全テ政府紙幣ニシテ、十月十
日設立セラレタル泰國銀行ハ發券ヲ爲シ得ルコトニナリ居

ルモ國際金融ノ安定ヲ見ル迄ハ政府ニ於テ發券ヲ爲スコト
ニナリ居レリ

大東亞戰爭直前ノ發行高ハ二億七千万銖ナリシモ戰後一月
一千万銖ノ割合ヲ以テ増加シ六月末ニ於テ四億五千万銖ト
ナリ其後日本側軍費放出ニ依リ現在五億數千万銖ニ達シ居
レリ

通貨發行ノ準備トシテハ戰前金、金貨證券外貨等ニテ百分
ノ準備ヲ有シタルガ米英ニ有リシ一億七千万銖ノ外貨準備
ヲ失ヒタルモ日本國ヲ準備ニ加ヘタル外日本側ノ金イヤマ
ーウ竝ニ二億圓借款ニ依リ現在百分ノ準備ヲ有シ居レリ。

(日) 金融

金融機關トシテハ銀行ノ外ニ信用組合、貯蓄組合、**銅管**(銅管)
屋(チエチ)有リ

銀行トシテハ泰ノ銀行トシテ中央銀行、國立貯蓄銀行、泰
商業銀行、アジア銀行、シテイ銀行、タイバンクカンパニ
ーリミテッドノ六行有り、ソノ外協同組合銀行法案通過セ
ルモ未ダ開業ニ至ラズ

支那系銀行トシテハ廣東省銀行、四開通銀行、豫皖春銀行
ノ三行有り

外ニ印度支那銀行、橫濱正金銀行ノ二行有り、合計十一行、
近々開業豫定ノモノ一行ナリ

此等金融機關ノ活動狀況ヲ見ルニ六月末現在ニ於テ預金一
四四百万銖（當座一二八百万、定期一六百万）ニ對シ貸付
金四八百万銖、公債保有三五百万銖手持現金又ハ他銀行ノ預
ケ金四五百万銖ニシテ投資市場ノ狹隘性ヲ物語ルト共ニ公債發
行總額約八千万銖ト對比シ金融機關ノ公債保有相當多額ニシテ一
般消化不充

分ナルヲ示スモノト云フベシ

目物 價

戰前比較的安定セルモ戰後外國ヨリノ物資輸入杜絶、軍費、政費ノ増大ニ對シ輕工業ノ振興見ルベキモノナク物價ハ次第ニ騰勢ヲ示スニ至レリ

乘ハ從來物價統制ニ關シテハ退蔵取締令、暴利取締令ノ二本連ニ依リ取締居リ後者ニ依リ二百數十品目ニ對シ公定價格ヲ設定セルモ統制利カズ更ニ銖切下ノルマニ依リ自動車カケラレ昨年七月暴騰ヲ見タルヲ以テ統制方式ヲ改メ特ニ食糧物資統制令ヲ公布シ公定價格制ハ生活必需品ニノミ續行スルト共ニ一定商品ノ販賣配給統制ヲ施行シ嚴罰主義ヲ以テ臨ミタルモ物資不足、通貨放出増大ノ關係ヨリ騰勢止ムヲ知ラザル状態トナリタルヲ以テ軍令ニ依ル統制ヲ行

フコトトセリ、現在生活必需品及軍需品ニ付テハ統制利キ
安定ヲ見居ルモ其他商品ニ付テハ尙騰勢止マザル模様ナリ
今物價狀況ヲ示セバ左表ノ如シ

(一九四〇年十二月チー〇〇トス)

輸入品
 輸出品
 生米
 生工
 生ム

生 工 ム	米	(可)輸 出 品	綜 合	藥 品 類	金 屬 類	鐵 器 類	陶 磁 器 硝 子 類	食 料 品 類	雜 貨 類	織 維 製 品 類	織 物 類	(1)輸 入 品	商 品 名 年 月	
													綜 合	年 月
一 三 三	九 二		一 三 七	一 一 四	一 四 三	一 三 五	一 一 九	一 七 一	一 四 一	一 三 七	綜 合	一 九 四 一 年		
四 八	一 〇 九		三 六 三	二 七 三	四 〇 三	二 九 八	二 四 〇	四 三 八	三 五 九	五 四 九	綜 合	一 九 四 二 年		
三 六	一 三 四		五 七 一	四 〇 七	七 三 五	三 七 三	五 〇 〇	六 八 三	四 八 八	八 三 一	一 九 四 三 年	一 月		
三 六	一 三 二		六 〇 八	四 八 〇	八 〇 五	三 八 五	五 一 九	六 九 二	四 九 四	九 一 三	二 月			
三 七	一 二 七		六 六 四	六 〇 八	九 一 六	四 〇 八	五 五 三	七 三 一	五 一 一	九 六 八	三 月			
三 六	一 一 九		七 二 九	七 〇 三	九 七 〇	四 一 五	五 九 五	八 一 五	五 八 七	一 〇 五 三	四 月			
三 八	一 三 二		八 一 一	九 〇 一	一 〇 四 〇	四 四 一	六 三 八	八 五 三	六 六 一	一 一 七 四	五 月			
四 〇	一 三 二		八 六 〇	八 九 〇	一 〇 九 三	五 七 四	六 二 二	八 六 九	七 五 四	一 三 七 三	六 月			
四 四	一 三 三		八 七 九	七 三 五	一 一 四 一	五 〇 七	六 三 七	八 七 六	八 六 〇	一 五 三 五	七 月			

屑 鐵	ダ マ ル	マ イ ヤ ン 材	乾 牛 皮	鹽 牛 皮	タ ビ オ カ	苧 麻 子	カ ボ ツ ク	實 棉	椰 子 油	タ ン グ ス テ ン	錫	チ ト ケ
100	150	100	150	111	106	110	94	104	133	163	148	103
95	130	175	119	173	100	309	96	137	197	141	92	125
90	145	150	150	105	83	364	97	177	238	163	113	169
90	145	150	162	137	80	362	100	186	244	163	113	178
90	140	175	169	163	73	384	103	383	263	163	129	185
90	136	175	169	163	67	369	114	428	294	172	129	185
90	140	194	151	100	80	364	103	539	313	172	129	200
90	144	194	151	100	83	349	97	651	331	172	129	200
90	144	113	127	100	90	328	93	790	356	172	129	200

スチツクラ ツケ	ブマ バング グロ グロ	綜 合
一三八	一三六	一一二
一六九	一一八	一一三
一一三	一一一	一三八
一一三	一一八	一四〇
一一三	一三五	一四八
一一六	一二五	一四七
一一三	一三四	一五六
一一八	一四三	一五八
一三〇	一四三	一七四

(二) 軍費調達交渉

昭和十八年ニ於ケル泰國駐屯軍、軍費調達狀況ニ關シテハ

(一) 先ヅ上半期分ニ付テハ前年度未使用繰額二千六百六十萬圓、

繰延使用ヲ爲セル外一千八百萬圓(内陸軍一千二百萬圓、海

軍六百萬圓)、新規調達ヲ爲シ居レリ。

右、決濟方法ニ關シテハ全年四月二十六日駐泰帝國大使及泰

國外務大臣間ニ軍費協定、著名交換ヲ了シ其、半額ヲ特殊圓、

残り半額ヲ金貨却ニ依リ決濟スルコトニ決定、全年七月二十

三日之ガ金イヤマイク、實行ヲ爲シ居レリ。

(二) 次ニ下半期ニ於ケル軍費調達狀況ニ關シテハ上半期追加分一

五、四〇〇千圓及下半期分七、〇〇〇千圓合計八、七四〇千圓

、供給方申入レタル處、泰側ハ兵、糧大ナリトシテ容易ニ之

ヲ應諾セザリシモ既意折衝、結果七月三十一日坪上下便及泰

國外務大臣間ニ左、取極ヲ見ルニ至レリ。

即チ泰側ハ

(1) 軍費、決算方法ハ特殊圖ニ依ルト、一般原則ヲ確認スルト

共ニ

(2) 本年下半年分トシテ六〇〇〇〇千圓（概ネ五對一、比率ヲ

以テ陸、海軍ニ割當）、軍費ヲ供給スルコト

(3) 然ル處下半年期、我所要軍費總額ハ陸軍一億二千八百萬圓（内
タイ細鐵道三千五百萬圓、クラ地峽鐵道二千萬圓及飛行場建
設費一千三百萬圓）並海軍一千五百二十萬圓合計一億四千三
百二十萬圓ニシテ既ニ泰側ヨリ受納シ得タルハ僅ニ前記七月
三十一日軍費協定ニ基ク六千萬圓ニ過ギザリシニ依リ尙差引
八千三百二十萬圓、不足ヲ生ジ居ル次第ナリ

(4) 依ツテ之ガ追加軍費供給方ニ付我方ハ軍費ハ特別圖ヲ對價ト

シテ提供セシメ、金トハ敢ク迄關聯セシメズ但シ我方ニ於テ別
途政治的考慮ニ基キ特別圓ヲ對價トシテ金供給方へ全年兩ニ
於テ二千萬圓位迄ノヲ應諾スルノ用意アル含ミテ以テ引續キ
泰側ト交渉ヲ重ネタル處金賣却高並ニ賣却價格ニ關聯シ相當
ノ迂 屈折ヲ經タルモ漸ク十月二十九日特別圓ヲ對價トシテ
追加軍費全額ヲ日本ニ對シ供給ヲ爲スベキ旨坪上大使及泰國
外務大臣間ニ別紙(一)及(二)ノ通り往復書翰ノ形式ヲ以テ軍費協
定ノ成立ヲ見タルガ金賣却ニ關シテハ別紙(三)及(四)ノ往復書翰
ノ通り賣却高ハ三千萬圓トナシ賣却價格ニ付テハ今回ハ泰側要望通り
一瓦四圓八十錢トシテ將來ハ公正且妥當ナル價格ヲ採用スル
ノ約束ヲ得ルニ止マリタリ、斯クテ懸案タリシ下半年期軍費調
達ハ漸ク解決ヲ見タルモ本件交渉經過ニ鑑ミルモ相當大幅ノ
増額ヲ豫想セラルル來年度所要軍費ノ調達ハ蓋シ交渉ニ多大

困難ヲ豫想セラレ泰國、一段、協力ヲ期待スル所切ナルモノアリ

備考

昭和十九年度上半期分對泰軍費要求額

陸軍	海軍	タイ細鐵道建設費	クラ地峽鐵道建設費	飛行場及道路建設費	木造船建造費	其他	合計
二二七	四八	五〇	二〇	三七	一五	一〇五	二七五
	百萬銖						

別紙(一)

NO. F/三 七五/一八

佛曆二四八六年七月三十一日付貴翰一七一五四/二四八六號ニ付本
職ハ閣下ニ對シ左ノ如ク通告スルノ光榮ヲ有スルモノニ有之候

一、今年下半年期軍資ハ戦局ノ緊迫ニ因リ増大セルコト

一、協定セラレタル銖資金六千萬銖ハ現在マデニ殆ド使用シ盡サレ、

前記期間中、不足額ヲ補填スルタメ八千三百二十萬銖、追加ガ至

急必要トセラル、コト、其ノ内詳左ノ如シ

陸軍

一、二八〇〇〇〇〇〇銖

一、泰國緬甸間鐵道建設費三、五〇〇〇〇〇〇銖、クラ地峽鐵道建

設費二、〇〇〇〇〇〇〇銖、泰國內ニ於ケル飛行場建設費一、三

〇〇〇〇〇〇銖ヲ含ム

海軍

一、五二〇〇〇〇〇〇銖

合計

一四三二〇〇〇〇〇 銖

既ニ協定セラレタル額

六〇〇〇〇〇〇〇 銖

差引必要トセラル、額

八三二〇〇〇〇〇 銖

本職ハ、日本政府ノ命令ニ基キ、閣下ニ對シ、兩國共同ノ目的ノ達成ノ爲日本陸海軍ノ緊急ノ必要ニ充當スルタ、右ノ金額ガ速力ニ供給セラル、ヨウ御配慮方煩シ度此段書意ヲ得候 洋 具

一九四三年九月二十三日

日本大使

泰國外務大臣

ウイチット・ワタカン、閣下

別紙(口)

NO. 二五七八五 / 二四八六號

拜 啓

一九四三年九月二十三日付貴翰(口) / 二七五 / 一八號、本年下半年期軍費トシテ八千三百二十万銖追加供給ニ關スル件ニ付、本職ハ閣下ニ對シ、泰國政府ハ一九四三年十二月三十一日ニ終ル期間、追加軍費トシテ特別圓ニ對シ八千三百二十万銖、要求額ヲ日本ニ供給スルモノナルコト及泰國銀行ニ對シ盤谷橫濱正金銀行ト直チニ必要ナル取決ヲ行フヨウ指圖スルノ用意アルコトヲ通告スル、光榮ヲ有スルモノニ有之候

拜 具

佛曆二四八六年十月二十九日

外務大臣代理

タムロン・ナワサワツト少將

日本帝國特命全權大使

坪 上 貞 二 閣下

一九

別紙(三)

NO. F/三一三/一八

拜 啓

日本帝國政府ヨリ金ヲ購入セントスル泰國政府ノ希望ニ關スル會談ニ付、本職ハ弊國政府ノ委任ニ基キ、日本帝國政府ハーフアイン・グラム四圓八拾錢ノ價格ニテ三千萬圓マデノ金ヲ賣渡ス用意ヲ有スルコトヲ、閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有スルモノニ有之候但シ將來泰國政府ガ日本ヨリ金ノ購入ヲ希望スル場合ニ於テハ兩國關係當局ノ合議ニ依リ、公正且ツ妥當ナル價格ヲ採用スルコト及コノ措置ハ一九四二年五月二日付調印ノ協定ノ覺書ニ規定セル特別圓ノ金兌換トハ何等關係ナキモノナルコトヲ諒解致スモノニ有之候

一九四三年十月二十九日

日 本 大 使

泰國代理外務大臣

タムロン・アツサワツト少將閣下

別紙(四)

NO、二五七八四/二四八六號

拜 啓

一九四三年十月二十九日付貴翰^ヲ /三一三/一八落手、本職ハ閣下ニ對シ、泰國政府ハ日本政府ガ一フアイン・タラムニ付四圓八拾錢ノ價格ニテ三千萬圓マデノ金ヲ賣渡ス用意アルコトヲ了知セルコト及泰國政府ハ今後ノ金買入ノ場合兩國關係當局ノ合議ニヨリ決定スル公正且妥當ナル價格ヲ適用スルコトニ同意スルコト、但シコノ措置ハ一九四二年五月二日付誦印ノ協定ノ覺書ニ規定セル特別圓ノ金兌換ニハ關係セザルモノナルコトヲ申上グルノ光榮ヲ有スルモノニ有之候

佛曆二四八六年十月二十九日

外務大臣代 理

タムロン・ナワサワツト少將

日本帝國特命全權大使

坪 上 貞 二 閣 下

(三) 新割讓馬來北部四州通貨處理問題

(一) 馬來四州及シヤン二州ノ泰國へ移管ト共ニ我軍政撤廢後ニ於ケル通貨金融關係ノ處理ニ關シテハ殘ニ大東亞省連絡委員會第一都會ニ於テ之ガ處理方針「馬來四州及シヤン二州ノ通貨金融處理要領」(別紙)ヲ決定、之ヲ現地ニ訓電シタルガ泰側ニ於テハタイ弗ヲ發行セントシ我方見解トノ間ニ多大ノ懸隔ヲ存シタルガ交渉ノ結果馬來四州通貨制度ハ戰爭終了迄現狀維持トスル途前ヲ採ルコトトシ泰側ノ所要資金モ多額ニ上ラザルモノト豫想セラレタルヲ以テ之ガ資金ハ南方開發金庫ヨリ供給スルコトトシ茲ニ坪上大使及泰國外務大臣間ニ於テ滿ネ左記ノ了解事項ノ成立ヲ見ルコトトナレリ

記

一 馬來四州通貨制度ハ戰爭終了迄現狀維持トスルコト

ニ泰側ノ必要資金ハ日本側ヨリ供給スルコト

三本了解事項ノ細目ニ付テハ兩國ノ權限アル當局ニ於テ取極
ヲ爲スベキコト

(二)而シテ「貨幣制度ノ現状維持」ニ關シ泰側ヨリ右ハ戰爭中通
貨回收ノ問題生ゼザルコトヲ意味スルモノト解シ支障ナキヤ
トノ申越アリタルヲ以テ我方ヨリ

(イ)現存通貨(南發券)ヲ以テ無制限法貨トシタイ側ニ於テモ
通貨ヲ發行セザルコト

(ロ)日本軍、日本側事業其他ノ必要ナル資金ハ日本側ニ於テ自
田ニ供給シ之ガ爲必要ナル南發券ハ自由ニ持込ムコトヲ得
ルコト

(ハ)四州内及四州外ノ日本側金融機關ハ從前通貨業ヲ爲シ待ベ
ク泰側ニ於テ之ガ正常ナル取引ヲ阻害セザルコト

等ノ諸點ヲ包含シ居ル旨回答シ且泰例ニ於テ本地域ニ爲替
理ヲ實施スル場合ニハ日本軍、日本側事業其他ノ資金ニ關聯
スル南發券ノ持込又ハ持出ニ付總ユル便宜ヲ供與スルコトヲ
モ要請シ其ノ確認ヲ得タリ

別紙

昭和十八年八月三十一日
大東亞各連絡委員會第一都會決定

マライ四州及シヤンニ州ノ通貨金融處理要領

マライ四州ノ日本側行政終止後ニ於ケル通貨金融處理ニ關シタイ側ヨリ申出アリタル場合ハ概ネ左記要領ニ依リ對處スルモノトス

第一 通貨

一、タイ側ガ本地域ニ於テバーツ貨ノ使用ヲ開始スルト同時ニ本地域ニ流通スル南發券（既發軍票ヲ含ム以下同ジ）及在來通貨トバーツ貨トノ等價無制限流通ヲ認ムルト共ニバーツ貨ヲ以テ等價無手数料ニテ之ガ無制限交換ヲ行フコト

二、タイ側ハ適當ナル時期ニバーツ貨ヲ以テ南發券及在來通貨ヲ回收スルコト

三、日本側金融機關ニ於テモ右ノ交換並ニ回收事務ヲ行フコトヲ得

ルコト

四 交換及回収ノ爲日本側金融機關ノ必要トスルパーツ資金ハタイ側ニ於テ豫メ之ヲ日本側金融機關ニ預託スルコト

五 回収シタル在來通貨ハタイ側ヲシテ之ヲ廢棄セシムルコト

六 回収シタル南發券ハ之ヲ南方開發金庫昭南支金庫ニ無利子ヲ以テ當分ノ間預入セシメ置クコト

七 南發券及在來通貨ノ回収開始後ハ日本側ハ南發券及在來通貨ノ拂出ヲ停止スルコト

第二 金融其ノ他

一 現在本地域ニ在ル日本側金融機關ニ付テハ之ガ營業繼續ヲ認ムルト共ニ其ノ店舗ノ新設又ハ移轉ニ付テモ能フ限り便宜ヲ供與スルコト

二 本地域ヘノ旅行者ノ旅費携帯ニ付テハ爲替管理其他ニ關シタイ

例ハ能フ限り便宜ヲ供與ス

三、タイ側ハ回收開始後本地域内ニ於ケル左ニ指ダル資金等日本側所要パーツ資金ハ「特別圓決済ニ關スルタイ國大藏省及日本銀行間協定」ニ依リ圓滑ニ之ヲ提出スルコト

(イ) 日本軍軍費

(ロ) 本地域内ニ在ル日本側企業ニ對スル融資ノ爲日本側金融機關ノ必要トスル資金

(ハ) 本地域内日本側企業者向ノ送金爲替支拂ノ爲必要ナル資金

(ニ) 本地域へノ旅行者携帯旅費交換資金

第三 實行細目

前各項ノ實行細目ニ關シテハ必要ニ應ジ兩國當該官憲ニ於テ協議ノ上之ヲ定ムルコト

備考

ト シヤンニ州ニ於テモ必要アルトキハ右ニ準ジ所處ノ取極ヲ爲スコ

第三、緬甸國

(一) 一般狀況

現下緊迫セル軍事情勢ニ即應シ緬甸側ヲシテ我方ニ眞ニ協力セシムルノ要有ル處先般ノ獨立ノ許與ハ上下ヲ通ジ眞ニ日本ニ感謝シ居リ殊ニ英ノ從來ノ搾取、盲爆、退却時ノ恭迎ニ對シテハ強キ反感ヲ有シ居リ而モ日本ノ勝利ガ獨立ノ絶對條件ナルコトヲ自覺シ極メテ協力的態度ヲ示シ居レリ

緬甸人ハ國民皆僧ノ關係上全テ寺院ニテ一應教育ヲ受ケ居リ相當ノ教育ハ有スルモ英ノ侵略後情勢トナリ議論ノミニテ實行力ニ缺ケ怠惰ナル缺點有リ且經濟問題等ニ關シテハ知識能力低ク反面干涉ヲ忌ム氣風有ルヲ以テ協力ヲ要望スルニ富リテハ右ヲ考慮ニ入レツツ施策スルノ要アルベシ

治安ハ目下安定シ居リ石ハ主要食糧タルホニ不足無キコト重要

原因ト見待ベキモ戦後ノ物資不足、物價騰貴ニ依リ生活不安ヲ
主ゼル向モ有リ、輿論宣傳ト相俟テ人心動搖ヲ生ズル虞モ無シト
セザルヲ以テ何等カノ對策ヲ講ズル要有ルベシ。殊ニ從來ノ英
ノ政策ニ依リマツテテ際ク外見ルベキ輕工業モ無シ、空襲對策
上ノ觀點ヨリ大工業ヨリモ寧ろ家内工業的企業ヲ振興スルコト
必要ナルベシ

(二) 財政

(一) 戦前豫算ハ歳入、歳出共概シテ二億圓程度ニシテ豫算編成當初
ハ歳入不足ニテ均衡セザルモ其ノ儘實行シ行キ十月頃修正豫
算ヲ組ムトキニ大體歳入剰余ヲ生ズルヲ例トシタル趣ナリ
(二) 獨立第一年度豫算(昭和十八年八月ヨリ昭和十九年三月ニ至
ル)ハ今般所定ノ手續ヲ經テ決定セラレタル處、概安左ノ如シ
1、本豫算ノ編成ニ當リテハ軍政下ニ於ケル輔弼行政府ノ始

和十八年度豫算ヲ基礎トシ最近ニ於ケル治安、産業、經濟等ノ諸情勢ノ變化竝ニ獨立ニ伴フ特殊事情ヲ勘案シ歲出ニ付テハ國家機密ノ整備治安防衛ノ強化竝ニ日本ニ對スル軍事協力等ニ重點ヲ置キ歲入ニ付テハ差富リ從來ノ租稅其ノ他ノ收入制度ニハ特別ノ變革ヲ加ヘス現行ノ制度機密ノ下ニ於テ能フ限りノ收入ヲ確保スル方針ノ下ニ計上セラレタリ

2、
歲出ハ總額一億八千七百七十餘萬留比ニシテ其ノ主ナルモノハ軍事費三千萬（國防費一千八百萬、日本ニ對スル軍事協力費一千二百萬）、警察費九百萬、教育費七百七十七萬、土木費六百八十六萬、防疫病院費五百七十萬等ニシテ特別會計ヘノ繰入金トシテ木祿買上資金五千八百六十八萬、國立銀行出資金一千萬、農民貸付金八百三十六萬

計 計上セラレタリ

3、歳入ハ總額四千七百七十餘萬留比ニシテ其ノ主ナルモノハ地租千三百萬、消費税百四十萬、森林收入七十萬、所得税二百六十萬等ニシテ國民所得ハ敵ノ反攻作戰下極メテ困難ナル情勢ニアル爲戰前豫算ノ約五分ノ一程度ノ歳入ニ止ムルコトヲ詠議ナクセララル

4、其ノ結果差引キ一億四千六百二十餘萬ノ歳入不足トナリ之ハ公債又ハ兩發金庫ヨリノ借入金ニ俟ツコトトナリ居レリ

5、作戰下資材ノ逼迫、交通機關ヲ破壞セラレ居ル折柄ナルヲ以テ本豫算編成ニ富リテハ劣メテ豫備金ヲ増額スル様軍側ニ於テ内面指導セルモ向軍事實其ノ他若干ノ經費ヲ添キ本豫算ヲ細旬國政府ニ於テ充分消化シ侍ルヤハ疑問

ノ餘地アリト思考セラル

日本年度以降ノ財政状態ヲ推定スルニ歳入ハ極度ニ壓縮スルモ到底一億圓ヲ下ラサルベキニ對シ歳入ハ地租(戰前收入約四千萬圓)ニ於テ現在ヨリ相當額ノ増加ヲ見込ミ待ルノミニシテ所得稅(戰前約二千萬圓)中法人新待稅ハ從來英國系、印度系會社ノ負擔スル所ナリシヲ以テ之ニ期待スルヲ待ズ、個人新待稅ハ失職者増、俸給減ニ依リ増加ノ見込ナク、關稅(戰前輸出稅約三千万圓、輸入稅約一千万圓)、消費稅(戰前約二千万圓)モ回復ノ見込ナキヲ以テ當分歳入缺陷ノ連續ハ蓋シ止ムヲ待サルベシ

(三) 金融

(一) 戰前直前ノ通貨流通量ハ約二億留比ニシテ昨午二月頃三億留比ニ増加シ其後ハ軍票放出セラレタルガ石ニ依リ更ニ三億八

千萬留比増加セリ

在來通貨中英印軍ノ燒却セルモノ、持出シタルモノ等ノ算定
困難ナルモ右番餉額多額ニ滞留シ居ルモノト認ムベク今後
月七千萬乃至八千萬ノ放出ヲ考フルトキハ通貨流通量ハ相當多
額ニ達スベシ

一方回收方面ニ於テハ貯蓄心極メテ乏シキコト、預金收収機
關少キコト、物價騰貴ニ依リ換物思想旺盛ナルコト及英印軍
反攻ノ氣構等ニ依リ豫金極メテ少ク八月末現在ニ於テ總額二
千一百萬留比程度ニ過キズインフレ懸念頗ル濃厚ナリ、戦時下
軍票ノ放出増大ハ止ムヲ待サル處ナルヲ以テ當局ニ於テハ郵
便局ノ復活小郵便局ノ活用、愛國公債ノ發行（既に二百萬圓
賣出十數萬圓程度消化）國債ノ發行等ノ政策ヲ講ズルノ外貯
蓄組合ノ組織並ニ新通貨發行ノ際交換額ノ半額ヲ中央銀行ニ

プロツクスルコト等ノ措置ヲ請ジインフレヲ抑制スベク考慮
シアリ

□金融機關トシテハ戦前銀行二十數行、店舗四十八ヶ所ノ外信
用組合、質屋、チエチー等有リタルガ現在ノ状態ヲ見ルニ銀
行ノ何レモ敵性銀行ナル故活動シ居ラズ日本側金融機關ノ外
ハ單ニ庶民金融機關トシテ細甸庶民銀行開設セラレタルノミ
チエチーハ從來二千程度アリタルガ現在數人登録シ居ルニ過
ギズ業績振ハズ、質屋ハ支那人主トシテ行ヒ居リタルガ現在
殆ンド營業シ居ラズ信用組合ハ最盛時ニ於テ二千ヲ數ヘタル
ガ現在二百程度ニ過ギズ而モ營業ハ殆ンド行ヒ居ラザル状態
ニシテ細甸人ヲ對象トスル金融機關殆ンドナキ状態ナルガ支
那人、印度人ハ自己資金ヲ所有シ居リタルト細甸人ハ現在事
業ヲ殆ンド營ミ居ラザル故大ナル支障ヲ來スコトナシ(但シ農

工資金ハ必要ナルヲ以テ政府ハ五百萬圓程度信用組合ヲ通ジ
貸出スコトニ豫定シアリ。戰時下特ニ急速ニ金融機關ノ整備
ヲ急グノ要モ認めラレザルモ現下ノ状態ハ餘リニ不備ト謂フ
ベク整備ノ企畫ヲ爲シ置ク要有ルベシ。殊ニ地場銀行ノ設立
ハ最モ必要ト忠料セラルルモ袖甸人ハ銀行經營ノ經驗無ク且
資本ノ蓄積ナキコト等困難ナル事情有リ石ヲ考慮スルトキハ
今回設立セラレタル國立銀行ガ普通銀行業務ヲ兼營スルコト
ハ時宜ニ適シタルモノト言フベシ

第四、南方占領地域總括

(一) 治安

最近昭南ニ於テ時計仕掛ノ爆彈ニ依リ船舶擊沈ヲ企圖セル事實
反北部ボルネオ、アビーンニ於テ支那人ヲ中心トスル約二百名ノ
暴徒襲撃ノ事實アルノ外マライ地域ニ於ケルテ口事件ノ頻發ハ
占領當時ニ比シ若干治安ノ惡化ヲ物語ルモノナルモ一般ニハ皇
軍ニ對スル心服厚ク現地人ノ態度ニハ涙グマシイモノ有リ治安
ハ概シテ良好ト言フベシ
殊ニ印度洋方面ニ於ケル敵反攻ニ對スル我万ノ備完壁トナリタ
ル上現地人ニ依ル義勇軍ノ組織有リ相協力シ治安維持ニ任ジア
ルヲ以テ敵ノ宣傳謀略有リトスルモ之以上治安ノ惡化スルガ如
キコトハ無キモノト思料セラルルモ食糧、衣料、生活必需品ノ
供給確保ハ治安確保上絕對必要條件トスベシ

(二) 財政

一 昭和十八年度軍政會計豫算

(一) 昭和十八年度軍政會計歳入歳出豫算ハ追加豫算ヲ含メ歳入

一六六一・七七七千圓、歳出一六四九・七七七千圓ニシテ各軍別ニ示セバ次ノ如シ

昭和十八年度追加豫算本豫算合計表

區分	追加		豫算		本豫算		計	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
◎一般合計	0	0	0	0	885,737.04	885,737.04	885,737.04	885,737.04
總軍	51,234,327	51,234,327	12,582,922	12,582,922	885,737.04	885,737.04	885,737.04	885,737.04
馬來	2,043,806	2,043,806	1,258,292	1,258,292	1,770,635.39	1,770,635.39	1,770,635.39	1,770,635.39
爪哇	1,000,059	954,039	6,656,875	6,656,875	870,046.11	870,046.11	870,046.11	870,046.11
北ボルネオ	1,580,000	1,080,000	2,390,344.16	2,390,344.16	2,490,344.75	2,490,344.75	2,490,344.75	2,490,344.75
ヒルマ	1,816,888	1,816,888	3,143,371.6	3,143,371.6	3,301,371.6	3,301,371.6	3,301,371.6	3,301,371.6
計	10,141,408.0	10,141,408.0	5,911,882.6	5,911,882.6	6,926,035.06	6,926,035.06	6,926,035.06	6,926,035.06
右ノ他								
馬來支那合計	3,031,560.9	3,031,560.9	1,687,044.74	1,687,044.74	1,990,200.83	1,990,200.83	1,990,200.83	1,990,200.83

スマトラ文部合計	一三三八一〇五六	一三三八一〇五六	四六〇二八六七〇	四六〇二八六七〇	五九四〇六七二六	五八九〇六七二六
ビルマ行政府	〇	〇	一二七四一七一四〇	一二七四一七一四〇	一二七四一七一四〇	一二七四一七一四〇
合計	四三六九六六六五	四三六一九六六六五	三三三二一五〇二八四	三三三二一五〇二八四	三八五八四六九四九	三八五三四六九四九
特別會計	一四四一七四四五	一四四六五四一四五	九三三三三八七一〇	九三三三三八七一〇	一〇七七八四三三四五五	一〇七七九二八三五五
馬	七〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇〇	一四一九九八二五〇	一三〇三三九五一〇	一四八九九八二五〇	一三三三三九五一〇
臨時獻納金	〇	〇	二〇六五八七四〇	一七〇〇〇〇〇一	二〇六五八七四〇	一七〇〇〇〇〇一
通信事業	〇	〇	一〇二九一五三八	一〇二九一五三八	一〇二九一五三八	一〇二九一五三八
專賣事業	〇	〇	一九七一四〇〇一	一九七一四〇〇一	一九七一四〇〇一	一九七一四〇〇一
鐵道事業	七〇〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇〇	一八〇六七五〇〇	一八〇六七五〇〇	二五〇六七五〇〇	一八〇六七五〇〇
廠産處理	〇	〇	六九二七九七〇	六九二七九七〇	六九二七九七〇	六九二七九七〇
民需物資管理	〇	〇	六三三三八五〇一	六三三三八五〇〇	六三三三八五〇一	六三三三八五〇〇

重要食糧管理	資金	産業緊急融	製糖事業	官營質鋪	通信事業	陸輸事業	爪哇	民需物資管理	敵産處理	鐵道事業	通信事業	廠産農園管理部	スマトラ
0	0	0	0	0	0	0	300650	13302500	0	261600	2690100	4500001	20754301
0	0	0	0	0	0	0	300650	14802500	0	261600	2690100	4500001	21254301
4633000	12580000	34250000	8580000	100659260	21239900	258986954	258986954	9333500	1445592	20086500	5121136	0	35986728
54928600	10046540	34250000	5780000	99752260	21239900	258986954	258986954	8835500	1445592	20086500	5121136	0	35486728
4615000	12580000	34250000	8580000	100659260	21239900	258986954	258986954	9333500	1445592	20086500	5121136	4500001	5674929
54928600	10046540	34250000	5780000	99752260	21239900	258986954	258986954	8835500	1445592	20086500	5121136	4500001	5674929

工場管理經營	0	0	1,933,000	2,022,000	1,933,000	2,022,000
バンドンキニ ノ製造所	0	0	1,286,739	1,084,039	1,286,739	1,084,039
自動車收容 整備	0	0	1,104,000	1,786,600	1,104,000	1,786,600
貯金局	3,065,000	3,065,000	1,044,000	1,044,000	1,044,000	1,044,000
ビ ル マ	4,146,880	4,146,880	3,423,916	3,423,916	3,423,916	3,423,916
シヤン州政廳	4,146,880	4,146,880	992,788	992,788	1,407,476	1,407,476
ポ ノ 下 ウ イ ン 鑛 業 所	0	0	1,955,000	1,955,000	1,955,000	1,955,000
電政總局	0	0	4,754,282	4,754,282	4,754,282	4,754,282
計	3,193,731	3,193,731	4,711,100	4,599,400	5,014,831	4,923,743
右 ノ 外						
馬來支那會 計	2,073,950	2,073,950	1,356,231	1,356,231	1,356,231	1,356,231

本豫算ハ改
定豫算ニヨル

部會計	スマトラ支	部會計	スマトラ支	部會計	スマトラ支	部會計	スマトラ支	部會計	スマトラ支	部會計	スマトラ支
スマトラ支	160780	スマトラ支	160780	スマトラ支	4222950	スマトラ支	4150650	スマトラ支	438730	スマトラ支	4317400
ビルマ米穀 處理會計	0	ビルマ米穀 處理會計	0	ビルマ米穀 處理會計	61635140	ビルマ米穀 處理會計	61635140	ビルマ米穀 處理會計	61635140	ビルマ米穀 處理會計	61635140
計	368175	計	368175	計	79214321	計	79214321	計	79583496	計	79510196
合計	32299906	合計	32299906	合計	550425421	合計	53908121	合計	582725327	合計	571885027
總計	177413651	總計	177454051	總計	1483764131	總計	14772424831	總計	1662177782	總計	1649877882

備考

昭和十八年度本豫算追加豫算合計額ハ以上ノ如クナルモ、
 ビルマニ於テハ昭和十八年八月一日ビルマ國獨立ニ伴ヒ同
 日以降シヤン州及カレン州ヲ除キ軍政ハ廢止セラレ更ニ同
 年十月二十日上記シヤン及カレン二州モビルマ國ニ移讓セ
 ラレタル結果ビルマニ於ケル軍政ハ凡テハ終止シ從ツテ軍
 政會計モ亦廢止セラレコトトナレリ
 又馬來ニ於テハ北部四州ヲ泰ニ移讓ノ結果同地方支那軍政
 會計豫算モ亦廢止セラレタリ

(二) 歳入關係

(1) 一般會計歳入財源内譯

1 總 軍

單位 一、〇〇〇〇圓

事業	本 豫 算	追 加 豫 算	計
事業收入	六一、五六〇	〇	六一、五六〇
臨時軍入事業費	二六、九四三	〇	二六、九四三
其他	六九	〇	六九
計	八八、五七二	〇	八八、五七二

備考

事業收入中ニハ配給統制等ノ爲軍政會計ニテ購入
販賣シタル收入金ヲ含ム以下同シ

2 馬 來

單位 千弗

計	其 他	借 入 金	臨 軍 ヨリ 補 給 金	事 業 收 入	專 賣 收 入	租 稅	本 部		支 部		計			
							本 豫 算	追 加 豫 算	本 豫 算	追 加 豫 算	計	計		
計	一二五八二九	三三三八一	〇	〇	三六四七	四六九〇一	三六三七八	八三三九	二二一五四	五八一	二一七三五	六八〇五五	三六九五九	一〇四〇一四
	五八三三六	四八五六	一〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	六〇〇〇	八九〇五二	九六三一	九六六八五	〇	〇	六〇〇〇
	一七五〇六三	四一三三	一〇〇〇〇	〇	三六四七	四六九〇一	八三三九	二二一五四	五八一	二一七三五	六八〇五五	三六九五九	一〇四〇一四	
	一六八七〇四	五八四九八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三〇三三五	二〇一〇二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	一九六〇二〇	七八六〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	二九四五三三	九三七六九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	八二五四九	二四九五八	一〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	三七六〇八二	一一八七三七	一〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考 專賣收入ハ專賣事業特別會計ヨリノ繰入金ヲ計上ス

4 爪 哇

區分	租稅	專賣收入	事業收入	借入金	其他	計
本豫算	八九六八四	二三五四四	七一五一〇	二七五七〇	二六七二六	二三九〇三四
追加豫算	〇	〇	一八〇〇	〇	八二〇〇	一〇〇〇〇
計	八九六八四	二四五四四	七三三一〇	二七五七〇	三四九二六	二四九〇三四

5
ビルマ

計	其 他	管 入	他 會 計 ヨ リ 受 入	臨 事 會 計 ヨ リ 補 給 金	專 業 收 入	租 税	本 部		シヤン 政 府		行 政 府					
							本 部 算 計	追 加 算 計	本 部 算 計	追 加 算 計	本 部 算 計	追 加 算 計				
三九七四九	一三四五	二一六四七	一六〇八七	〇	一五〇〇	三二七〇	〇	〇	三三三	〇	三三三	〇	五三三二七	五八九四〇	〇	三六九四〇
八一六六三	〇	八八三八三	〇	六三二八	〇	〇	一四三三	〇	〇	〇	〇	〇	一九七二九	一三六八四	六三二八	一三六八四
七九一六	一三四五	〇	二〇八七	六三二八	一五〇〇	三二七〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
六九二七	六七六	七〇四二	四二一	〇	一四三三	三三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一六六	〇	二四一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四一	六七六	一八八	四二一	〇	一四三三	三三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一四一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一七	三六七六	〇	三六八二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一〇三	三九七	二八六八	七一九三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	二九八四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	三九七	四一六七	七一九三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

6 北ボルネ才

區分	租稅	專賣收入	事業收入	借入金	其他	計
本豫算	四、四四九	三、〇六〇	一、八四三・八	一、一三〇	四、三五六	三、一四三・三
追加豫算	五〇	〇	三一九	五〇〇	七一	一、五八〇
計	四、四九九	三、〇六〇	一、八七五・七	一、六三〇	五、〇六七	三、三〇一・三

(ロ)借入金及臨軍補給金

昭和十八年度本豫算ニ計上シタル借入金及臨軍會計ヨリノ

補給金ハ

借入金

一一八、五九九、八九二

臨軍會計ヨリノ補給金

四二、九四三、一六〇

ナルモ更ニ追加豫算ニ於テ計上シタル額ハ

借入金

三七、四八九、四〇三

臨軍會計ヨリノ補給金

九、三二八、三七五

ナリ

右借入金及臨軍ヨリノ補給金内譯ヲ示セバ左表ノ如シ

昭和十八年度借入金並臨軍會計ヨリノ補給金

目 歳出關係

歳出關係ニ於テ各軍ヲ通ジ主要ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

1 海上輸送力増強ニ關スル經費

南方ニ於ケル物資ノ相互交流ノ圓滑化ヲ圖リ且對内地輸送ニ貢獻スル爲木造船ノ建造費、海員ノ養成費等海上輸送力増強ニ關スル經費一一七、六一五、九一八圓ヲ本豫算ニ計上シタルガ更ニ之ガ追加トシテ二、二八〇、六〇五圓ヲ追加セリ

之ガ事項別内譯左表ノ如シ

昭和十八年度海上輸送力増強ニ關スル經費内譯表

事項	本豫算	追加豫算	計
總 馬 軍 來	三三三三三〇〇〇	〇	三三三三三〇〇〇

海員養成費	三七二六七〇	一三〇六四〇	五〇三三〇
船員厚生施設費	一三〇〇〇〇	二五〇三九〇	三九〇三九〇
其他	四一〇七五〇〇	〇	四一〇七五〇〇
計	四一五八六六〇	三八一〇三〇	四一五八六六〇
爪哇	一六一五六九九八	〇	一六一五六九九八
スマトラ	二〇四一五一一〇〇	一七〇三〇〇	二〇五八五五〇〇
木造船建造費	三三一四三三〇	〇	三三一四三三〇
其他	二五七二九四三〇	一七〇三〇〇	二五八九九八三〇
計	〇	一七二九一七五	一七二九一七五
ピルマ	〇	〇	〇
沈船引揚費	一五六三八四〇	〇	一五六三八四〇
其他	一五六三八四〇	一七二九一七五	三二九三〇一五
計	一五六三八四〇	一七二九一七五	三二九三〇一五

北水ル才	一四三九八〇	〇	一四三九八〇	一四三九八〇
合 計	一四三九八〇	〇	一四三九八〇	一四三九八〇
北水ル才	一四三九八〇	〇	一四三九八〇	一四三九八〇
合 計	一四三九八〇	〇	一四三九八〇	一四三九八〇

2 治安ノ恢復維持ニ要スル經費
 治安ノ恢復維持ニ要スル經費トシテ二九一、二〇四、七二二
 二圓ヲ本豫算ニ計上シタルガ更ニ之ガ追加トシテ二九、八
 九〇、九五六圓ヲ追加セリ
 之ガ事項別内譯左表ノ如シ

昭和十八年度治安ノ恢復維持ニ要スル經費内譯表

事項	本豫算	追加豫算	計	備考
(1) 警察機誌整備				
馬 來	五〇三、四七六	五七三、一四〇	六〇七、六一六	
スマトラ	九一、八六〇	一一七、〇一七	二〇八、八七七	

爪哇	1,333,400	0	1,333,400	或ハ本豫算ニ於テ食糧増 産ニ關スル經費ハ地方補 助金トシテ計上シ居リタ ル處追加豫算ニ於テ方針 本變更シ補助金ヲ取止メ 本部會計直轄トシタルニ ヲル
ボルネオ	797,400	0	797,400	
計	2,130,800	319,200	2,450,000	
(2)食糧對策費				
馬來	458,750	113,525	572,275	
本豫算計上額	458,750	△388,750	700,000	
興地開發費		665,000	665,000	
多收穫實働費		1,000,000	1,000,000	
指導員養成費		71,000	71,000	
農具改良費		1,000,000	1,000,000	
食糧需給納費		631,000	631,000	

(3) 治安對策ニ要スル經費 馬 來	(4) 生活必需品之配給確保ニ要スル經費 馬 來	計		爪哇	スマトラ
		爪哇	スマトラ	爪哇	スマトラ
部落民移動費 武器蒐集費 及土費 警團育成費	生活必需品 配給確保費	0	10,000,000	0	10,000,000
治安對策ニ要スル經費	馬 來	1,000,000,000	1,000,000,000	0	0
爪哇	爪哇	1,000,000,000	1,000,000,000	5,500,000,000	10,000,000,000
總計	總計	2,000,000,000	2,000,000,000	5,500,000,000	10,000,000,000
民需物資官 理局會計課人	民需物資官 理局會計課人	0	5,000,000	0	5,000,000

民需物資管理費	瓜哇	八八三三三〇〇	一四八〇三三〇〇	二二六三六〇〇〇
ピルマ	五九九二八六〇〇	〇	五九九二八六〇〇	
ボルネオ	一〇〇三三〇二八〇	〇	一〇〇三三〇二八〇	
重要食糧管理費	六六九四二五八	五〇〇〇〇	七二〇四二五八	
物資統制法費	〇	五〇〇〇〇	六六九四二五八	
計	二六〇一一五一一三八	一〇〇〇〇〇	二七五四二七六三八	
總計	二九一二〇四七三二	二九八〇〇九五六	三二一六〇九五六七八	

3 軍事的經費

軍事的經費トシテ三五、九二八、七九五圓ヲ本豫算ニ計上シタルモ更ニ之ガ追加トシテ二一、九二六、六八〇圓ヲ追加セリ
 之ガ事項別内譯左表ノ如シ

昭和十八年度軍事の經營内諱表

事項	馬	土	氣	放	鐵	道	計	ス	マ	ト	ラ	木	象	送	道	信
本豫算	5100000	1310000	2200000	0	0	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000
追算	5000000	0	0	0	0	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000	5000000
	5000000	1310000	2200000	0	0	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000	5300000

自動車整備	0	1,200,000	1,200,000
計	9,834,600	7,311,200	12,345,800
爪哇	8,314,600	0	7,311,200
ビルマ	0	0	0
防衛軍費	1,500,000	1,000,000	1,500,000
軍事機密地域設定費	0	1,000,000	1,000,000
計	1,500,000	2,000,000	3,000,000
北ボルネオ	0	0	0
土木	2,500,000	2,500,000	2,500,000
通信(海底線)	0	3,000,000	3,000,000
計	2,500,000	5,500,000	8,500,000
合計	13,334,600	15,822,200	24,845,800

三、昭和十九年度軍政會計總算

(一) 編成方針

重要國防資源、急速取得及作戰力、現地培養ヲ促進シ以テ
我ガ戦力ノ增強ニ寄與スルヲ以テ第一義トシ左記方針ニ依
リ之ヲ編成シツツアリ

記

1 歳出ニ於テハ軍事上ノ要請、治安ノ維持改善、重要國防
資源産業並ニ現地自治ニ必要ナル産業ノ復興開發、生活
必需物資ノ配給確保、海上輸送力ノ增強ノ爲、施策等ニ
重點ヲ置クト共ニ一般行政費ニ付テハ此ノ際徹底的檢討
ヲ行ヒ極力不急經費ノ節減ニ努メ以テ可及的財政ノ自立
ヲ期スルコト

2 歳入ニ付テハ各地域ノ治安、經濟復興ノ程度、其ノ他民

族指導上ノ要請ヲモ考慮シ財源ヲ選擇シ各地域ノ實狀ニ
即之ル墜實間素ナル收入制度ノ整備ヲ意圖スルコト

3 民生安定ノ趣旨ニ基キ戦前ニ比シ現地住民ノ財政負擔ヲ
加重スルハ慎重ヲ期シ特ニ其ノ直接税ノ徵ハ之ヲ見合
スコト

4 浮動購買力ノ收収ニ付キ特ニ留意シ惡性通貨膨脹ノ抑制
防止ニ努ムルコト

5 各地ノ實情ニ應シ歳入補填ノ爲已ムヲ待タル時ハ其ノ通
常歳入ヲ以テ一般行政費ニ不足スル分ニ付テハ臨時軍事
費特別會計ヨリ、補給益ヲ以テ、其ノ投資的支出又ハ建
設事業支出ニ不足スル分ニ付テハ南方開發金庫ヨリ、借
入金ヲ以テ補填スルモトス

6 歳出ニ伴フ重要物資ノ需要ハ最少限度ニ止、當該動員計

聳ト、適正ヲ期スルコト

7 線算ノ圓滑ナル運管ヲ期スル爲款項ノ簡素化ヲ圖ルト共

ニ必要ナル線備費ヲ計上スルコト

8 特別會計線算モ右ニ準ジ編成スルコト

二 線算概要

線算ノ基本トナルベキ重要事項ニ關スル經費所要額ニ其ノ

他ノ一般經費ヲ加ヘタル昭和十九年度歳出線算ノ概要額ハ

特別會計分ヲ加ヘ總額

千圓

一三七七七七

三八一六七四

一八五九六三

五九一六二二

二一六一一一

線 軍

馬 來

スマトラ

爪哇

北ボルネオ

計

一三一八一四七

ニシテ更ニ馬來及スマトラニ於ケル支部會計豫算ハ馬來一
七八三九四千圓スマトラ六〇一ニ〇千圓計ニ三八五一四千
圓ニテ加フルトキハ總額一五五六六六一千圓ニシテ之ヲ昭
和十八年度豫算額（ピルマナ際ケ）ニ比較スルトキハ一九
〇六一八千圓ノ増額ヲ示シ居レリ今地域別・事項別ニ内譯
ヲ示セバ左表ノ如シ

區分	歳入	歳出	計	其 他	借 入 金	臨 軍 會 計 ヨ リ 繰 入	事 業 收 入	專 賣 收 入	租 稅
總軍	千弗	〇	一三九七七	六九	〇	六三四一五	七五二九三	〇	〇
馬來	千弗	一五二六	二三八六五九	一九七二一	六六一二〇	一一四〇五	五二八四四	六九〇三	七八六六七
スマトラ	千盾	二二三〇	一〇九七八〇	一五三〇〇	二五〇〇〇	二二四〇〇	二一九八〇	一九三〇	二五〇八〇
爪哇	千盾	二七九二五	四三〇八二〇	三九六八五	三五五〇〇	四八九〇〇	一八〇〇九七	二八九六六	九七六七二
北ボルネオ	千弗	一六四	二一一一	三〇九六	二一四五	三〇〇	三三一八	三〇〇〇	八二五二
計	千	三六三三三	九二八一四七	六九七七一	一三二七六五	一四六四二〇	三三三三三三	三九七八八	二〇九六七一
備考		九〇七四〇							
		三六三三三							
		三六三三三							
		三六三三三							
		三六三三三							

食糧對策費	海上輸送力、増強費	道路其他土木費	物價對策費	過剩特産資源處理費	衛生施設費	機密費及接待費	其他現地統治上重要事項	其他	豫備金	其他	計
0	101477	0	0	0	0	100	0	33300	10000	25500	137777
27216	54583	2775	4392	536	2321	300	11333	28697	10000	48697	238697
4483	19027	0	2400	500	2202	300	4074	3756	15000	28756	109780
7372	10990	1470	1567	0	9664	200	15960	21932	20000	19932	43080
614	2000	705	260	0	251	110	2207	1356	850	10506	22111
39685	286027	218250	9619	2036	15438	2330	29564	368331	55850	312881	928147

右ノ外		支部會計		總計		統	
歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲	歲
入	出	入	出	入	出	入	出
〇	〇	〇	〇	一三六七七七	一三六七七七	一三六七七七	一三六七七七
一七八三九四	一七八三九四	五六〇〇六八	五六〇〇六八	五二九〇三〇	五二九〇三〇	五二九〇三〇	五二九〇三〇
六〇一三〇	六〇一三〇	二四六〇八三	二四六〇八三	二二五五九〇	二二五五九〇	二二五五九〇	二二五五九〇
〇	〇	五九〇一三三	五九〇一三三	五五七三六〇	五五七三六〇	五五七三六〇	五五七三六〇
〇	〇	二一七一	二一七一	二一七一	二一七一	二一七一	二一七一
二三八五一四	二三八五一四	一五五五二六一	一五五五二六一	一四六七三六八	一四六八八六八	一四六七三六八	一四六八八六八

三、財政協力問題

大東亞財政、綜合運營、帝國財政、負擔輕減ヲ圖ル爲、豐富ナル經濟力ヲ有スル南方占領地域ニ於テ其、能力ニ應ジ帝國ニ對スル財政寄與ヲ爲スベキコトハ大東亞建設理念ニ鑑ミ當然、慮ナルガ、現在各地域ハ財政狀態極メテ劣惡ナルニ拘ラズ帝國ニ對スル物資、運送、現地作戰上必要ナル軍事諸施設、建設等廣範圍ニ亘リ實質上、財政寄與ヲ爲シ爲シ、ニ多額、借入金ヲ爲シ赤字財政ヲ茲當分繼續セザルヲ得ザル現狀ナリ。繰入金ニ依ル財政協力モ固ヨリ級上ノ見地ヨリ可及的多額ナルヲ欲スベキモ現地ニ於テハ目下、財政狀態ニ鑑ミ且ハ實質上、寄與ヲ爲シ居ル今日繰入金ニ依ル財政協力ハ形式的、ニシテ其ノ意義渺シト、感ヲ抱キ居レリ。

四、租稅制度

南方占領地域ニ於ケル戰前ノ中央税制ヲ見ルニ勿論地域ニ依リ多少趣ヲ異ニスルモ先進國ノ其レニ比シ一般的ニ著シキ特異性ヲ示セリ

即チ(一)租税收入ノ主要財源ヲ爲スモ、(二)消費税特ニ關稅ナルコト(三)所得稅體系ヲ缺如セルコト(四)中央稅ノ中ニ各種ノ雜種稅ヲ含ムノミナラズ此等ノ雜種稅其ノモ、モ果シテ其ノ實體ニ於テ租稅ナルヤ手敷料ナルヤ其ノ性質不明ナルコト(五)稅率一般的ニ低率ナルコト(六)近代の租稅體系ノ整備セザルコト等ノ諸點ヲ擧ゲ得ベシ

稅制ニ於ケル以上ノ特異性ハ其ノ例外ヲモ含メテ一般ニ占領地經濟ノ後進性特ニ工業原料ノ供給地及製品ノ輸入地トシテ、殖民地經濟ノ特色ヲ反映スルモノト云フベシ
此等稅制ハ占領後ニ於テモ原則トシテ從前ノ盤踏襲サレ唯財

政收入ニ著シキ缺陷ヲ生ズル等其ノ他止ムヲ得ザル場合ニ限
リ一部改正ヲ加ヘタルニ過ギズ
而シテ税收ハ戦争ニ依ル經濟機構ノ破壊乃至轉換ニ依リ一般
ニ著シク減少シタル處現地財政自活ノ見地ヨリ之ガ増加ヲ圖
ル要有ルノミナラズ現下インフレ對策ノ一助トシテモ收入増
加ヲ圖ルコト緊要ト認メラル
但シ租稅体系ノ整備ノ如キハ戰局ノ現段階ニ鑑ミ寧ロ第三義
的ノモノト云フベク增收、インフレ對策ノ見地ヨリ個別的ニ
諸稅ヲ徵收シツ、アル現狀ハ蓋シ止ムヲ得ザル處ナルベシ

(三) 金融

一、通貨

(一) 占領直後ニ於ケル在來通貨流通高ハ約九億二千五百萬ト推定サレタル處作戰開發ノ進捗ニ伴ヒ次表ニ示ス如ク逐次軍票(南發券)ノ放出ニ依リ今ヤ二十一億ヲ超過シ全地域ヲ通ジインフレ問題漸ク深刻ナル様相ヲ帶ビントスルニ至レリ

今試ミニ通貨膨脹狀況ヲ今年一月乃至六月ノ平均ヲ採リテ之ヲ見ルニ次ノ如シ

(單位 百萬圓)

	軍費軍政費	貸出	預金	通貨膨脹
馬 來	一、一八	八、三六三	一、五七	一、二四
北 水 尔 ネ オ	二	四	一	五

月平均	合計	ス マ ト ラ	ジ ヤ バ	ビ ル マ
六三	三七七	四七	四三	一六七
三五	二一二	二一	六一	六〇
一八	九九	三	二一	一五
八一	四八九	六五	八三	二一六

(二)軍票及ビ在來通貨ハ當初等價チ以テ圓滑ニ流通シ通貨混亂チ生ズルコトモナク現地人ニモ喜バレ今年四月一日南發券ニ切換ハリタル後モ何等支障チ來サザリシ處最近ニ至リ時ニ戰局チ反映シ所ニ依リテハ在來通貨一〇〇對軍票一七〇ノ間相場行ハルル趣ナリ、固ヨリ目下ノ處右ノ如キ相場ガ支配的ニ行ハルルニハ非ルモ在來通貨退藏ノ傾向ハ極メテ濃厚ナリ、右在來通貨ガ彼我兩面ノ性格チ有スル關係上戰局ノ推移ニ應ジ軍票チ避ケ在來通貨チ歡迎スルモノニシテ占

領直後軍票ノ方ガ歡迎サレタルトキハ丁度逆ノ現象ヲ呈シ
來レルワケナリ

茲ニ一部ニ於テ在來通貨急速回收ノ意見アリ、然レドモ仔細ニ檢討スルニ闇相場有リト稱スルモ現實ノ物資購買力ニ差異アルワケニ非ズ、末ダソノ弊害大ナラザル反面退藏ニ依リ流通面ニ非ハレザルハ寧ロ目下最モ深刻ナルインフレ對策上好都合ノ現象ト云フベク殊ニ回收ヲ爲サントセバ紙幣印刷上ノ技術上ノ問題ハ暫ク措フモ戰局ノ動向機微ナル影響ヲ人心ニ與ヘル今日民心ニ動盪ヲ與フベク更ニ回收ヲ爲ス以上ハソレダケ流通面ニ現ハルルヲ避クル爲或ヒハ交換額中相當額ヲ銀行ニプロツクスルノ強硬措置ヲモ講ズルノ要有處現下右ノ如キ民心安定上輕々ニ採ル可キ策ニ非ズト思料セラル。即チ在來通貨回收ハ現下ノ情勢ニ在ツテハ

通貨不安ヲ惹起スルノ危険無シトセズ、此際ハ所謂「藪ヲ
ツツイテ蛇ヲ出ス」ノ危険ニ避クルヲ可ト認メラル

南洋占領地通貨流通高率定

(單位千磅、圓、百比)

		マライ	北ボルネオ	スマトラ	ジャワ	ビルマ	合計
占領直后		213,000	13,500	75,000	434,000	180,000	925,500
昭和十七年	注來通貨	213,000	13,500	90,000	503,000	130,000	979,500
	注南通貨	107,421	4,392	25,828	53,341	132,229	323,511
合計		320,421	18,192	115,828	556,341	292,229	1,303,011
昭和十八年三月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	143,538	9,523	57,629	76,741	232,331	520,280
合計		356,538	23,023	147,629	614,741	392,331	1,534,780
昭和十八年六月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	232,802	11,311	84,925	78,980	310,584	718,532
合計		445,802	24,811	174,925	616,980	470,584	1,733,032
昭和十八年七月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	253,742	11,438	102,827	84,827	342,592	795,428
合計		466,742	24,938	192,827	622,827	502,592	1,809,928
昭和十八年八月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	282,179	12,288	139,228	92,107	372,581	905,336
合計		502,179	25,788	229,228	630,107	532,581	1,919,836
昭和十八年九月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	316,454	12,813	165,520	107,632	438,075	1,041,909
合計		529,454	26,313	255,520	645,632	598,075	2,058,409
昭和十八年十月末	注來通貨	213,000	13,500	90,000	538,000	180,000	1,014,500
	注南通貨	335,438	12,918	174,568	119,104	671,939	1,180,469
合計		548,438	26,418	264,568	657,104	831,939	2,174,989

(注) 流通量ニハ金融機關保有現金ヲ含ム

二、物價

(一) 概況

南方占領地域ニ於ケル物價ノ騰貴ハ別紙綜合物價表ニ示ス如ク最近次第ニ激化ノ傾向アル處全地域ヲ通シ食料品價格ハヒルマ奧地ニ於ケル鹽、砂糖ノ價格ヲ除キ騰勢比較的緩慢ナルモ衣料品、日用品ハ其ノ騰勢急激亂調子ニシテヒルマ奧地並ニ昭南ニアリテハ戰前比較總平均指數ニ於テ既ニ戰前ノ五倍以上ニ達シ他地域ニ比シ物價高最モ顯著ナリ、一方從來昂騰比較的輕微ナリシジャワノ如キ地域ニアリテモ其ノ上向歩調漸ク倦リ難キモノ觀取セラル

物價ノ騰貴右ノ如クナルニ對シ勞働者實銀亦概ネ漸騰歩調ニアリ特ニ家庭勞働者實銀ニ對シ一般勞働者實銀ニ於テ騰貴ノ傾向比較的顯著ナルハ注目セラル

(イ) 最近ニ於ケル物價推移

南方占領地域ニ於ケル最近ノ物價ノ趨勢ハ別紙第一表及第二表ノ通り各地域共昂騰ヲ繼ケアル處特ニ注目スヘキハ昭南ニ於テ纖維製品ノ急騰ヲ主因トシ五月及六月ニ亘リ物價ノ激騰ヲ見タルコト竝ニ從來物價ノ上昇比較的緩慢ナリシシジャワニアリテモ茲許上向歩調可成リ顯著ナルモノアルコトナリ

(ロ) 戦前トノ比較

南方地域ニ於ケル物價ノ現況ヲ戦前ニ比較スレハ別紙第二表ノ通り騰勢最モ急ナルハビルマニシテ戦前ノ凡ソ五倍見當ニ達シ(主トシテ衣料品、日用品其ノ他ノ急騰ニ因ル)マライ之ニ次キ特ニ昭南ニ於テハ四月現在ニ於テビルマト同様戦前ノ約五倍ニ近キ騰貴率ヲ示セリ(主ト

シテ日用品ノ激騰ニ因ルニ次ニ騰貴率高キハスマトラニシテ北ボルネオ及ジャワハ騰貴率比較的輕微ナルカ昨年未戰前ノ四割程度ノ昂騰ニ止マリ居リシジャカルタニ於テモ主因ハ日用品ノ騰貴ニアルコト乍ラ既ニ戰前ノ二倍ニ近カラントスル情勢ヲ示セリ之ヲ要スルニ各地域ヲ通シ食料品ノ騰貴率ハ比較的緩慢ナルモ衣料品、日用品其ノ他ニ付テハ亂調子ナル高騰ヲ示シ居レリ

(ハ) 勞 賃

南方地域ニ於ケル勞働者賃銀ハ第百表ノ通り家庭勞働者賃銀ハ一部低落ヲ示セルモノアルモ大勢竊ホ昂騰傾向ニアリ殊ニ一般勞働者賃銀ハ各地共昂騰又ハ保合ヲ示シ低落ヲ示セルモノナシ

勞賃ノ昂騰最モ顯著ナルハビルマニ於ケル一被勞働者賃
銀ニシテ戰前ノ二倍以上ニ及ヘルモノアリテビルマハ全
地域中ノ最高位ヲ示シ北ボルネオ及マライ之ニ亞キスマ
トラ比較的低位ニアリテ其ノ騰貴率ハ一割乃至四割見當
方ノ上向ニ止マリ五割高以上ニ達セルモノ稀ナリ

第一表

南方地域月別物價總平均指數

(戰前=100)

地域	都 市	昭 17/12	昭 18/1	昭 18/2	昭 18/3	昭 18/4	昭 18/5	昭 18/6
マ ラ イ	昭 南	409	-	453	465	483	538	642
	クアラランブール	280	280	-	-	-	-	-
	ベ ナ ン	270	273	286	295	314	339	-
ス マ ト ラ	メ ダ ン	308	307	-	-	-	-	-
	バ ダ ン	190	201	-	-	-	-	-
北 ボ ル ネ オ	ク チ ン	-	-	138	188	138	-	-
	ミ リ ー	-	-	190	203	-	-	-
	ゼ セ ル ト ン	-	-	138	141	-	-	-
ジ ヤ ワ	ジヤカルタ	137	-	-	180	183	-	-
	ス ラ バ ヤ	117	114	-	-	168	-	-
	ス マ ラ ン	117	-	-	-	-	148	-
	バ ン ド ン	110	114	-	-	125	-	-
	シヨクジヤカルタ	129	136	-	-	150	-	-
ビ ル マ	ラ ン グ ー ン	463	-	-	-	-	-	-
	モ ー ル メ ン	525	-	-	-	-	-	-
	ラ シ オ	497	-	-	-	-	-	-
	タ ウ ン ジ ー	591	-	-	-	-	-	-

備
考

1 今回作成指數トノ對照上前發表ノ指數ニ修正ヲ加ヘタルモノアリ
 2 一ハ報告未着

第二表 (イ) 南方地域綜合物價指數 (小賣物價戰前=100)

品目	マラウ (18/4)			スマトラ (18/1)		北ボルネオ (18/3)			ジャワ (18/4)					ビルマ (17/12)				
	昭南	アララ フル	ベナン	マダン	バダン	クチン	ミリー	ビセル トイン	ジャ カル	スラヤ	*スマラン	バンドン	ジョク ジャカ	ラン グーン	モー ル	ラシオ	タウ ン	
主 食 品	精米	100	168	141	128	320	116	-	114	107	112	90	115	119	86	60	160	133
	玉蜀黍	358	319	-	175	-	200	-	100	-	-	-	-	-	167	-	-	-
	タピオカ	102	229	152	300	-	114	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サゴ粉	103	200	162	-	-	67	-	100	95	89	-	69	122	-	-	-	-
	主食品平均	161	227	152	201	320	124	-	104	101	101	90	92	121	86	114	160	133
副 食 品	牛肉	294	212	205	180	225	100	127	140	98	102	95	96	147	159	140	100	125
	豚肉	404	225	281	200	-	113	216	117	116	-	-	100	-	250	200	200	250
	鶏肉	351	243	175	183	273	100	367	111	127	102	125	125	113	200	134	229	400
	鶏卵	333	275	233	216	150	127	-	114	95	97	107	95	100	217	200	500	400
	鮮魚	242	170	295	267	267	100	114	117	157	120	-	100	143	250	200	286	367
	鹽干魚	190	188	550	371	-	136	-	182	138	139	120	165	169	400	225	250	200
	豆腐	380	200	378	240	125	100	200	-	136	91	133	150	200	-	250	1,000	233
	菜	388	177	360	500	-	100	140	-	108	150	200	96	238	242	300	375	300
	副食品平均	323	211	309	270	208	110	194	130	122	114	130	116	159	245	206	368	284
調 味 料	椰子油	-	145	135	120	-	138	-	263	117	126	163	127	206	600	800	375	550
	鹽	132	200	354	200	-	140	180	300	103	106	97	100	100	188	200	117	2,000
	砂糖	176	142	192	169	-	267	229	178	117	108	92	104	104	132	179	530	750
	カレー粉	-	694	366	1,083	-	144	-	-	-	-	-	-	-	333	450	267	267
	調味料平均	154	295	257	393	-	172	205	214	112	113	117	110	137	313	407	323	392

第二表 (ロ)

品目	品名	△ ケアラ ノール	ベナン	メダン	パダン	クチン	ミリー	ゼセン トン	ジャカ ンタ	スラバ ヤ	*スマ ラン	バンド ン	ジヨク ジャカ ンタ	ラング ーン	モー メン	ラシ オ	タウ ン	
衣 料 品	綿布サロ	350	286	175	214	125	188	250	140	157	141	—	124	146	222	1500	1150	900
	人絹サロ	220	560	165	—	125	122	217	150	139	124	—	125	136	273	600	283	367
	衣料品平均	285	423	169	214	125	155	234	145	148	133	—	125	141	248	1050	717	634
日 用 品	燈 油	—	—	92	138	—	120	118	148	375	106	—	—	—	1471	—	—	2000
	マ ツ チ	2083	200	300	—	—	100	500	120	450	71	—	—	—	150	833	2000	1800
	紙	1389	670	900	440	—	100	—	—	148	473	—	—	—	1972	167	250	140
	タ ン	1250	893	1333	393	—	—	—	—	—	—	—	—	—	400	1400	350	300
	洗 濯 石 鹸	1071	235	300	140	—	114	80	—	815	688	—	323	243	667	909	1000	1000
	日用品平均	1573	500	585	278	—	109	233	134	447	335	—	323	248	932	827	900	1108
其 他	煙	286	129	362	321	—	—	167	—	—	—	—	—	—	250	300	167	
	茶	—	150	313	833	—	—	—	221	—	150	—	—	—	222	—	500	
	アスピリン	81	113	113	214	—	—	143	—	101	101	—	113	105	300	300	200	240
	ヒマシ油	650	289	300	500	—	—	—	—	198	320	400	—	—	1209	2000	1000	500
他	ヒマシ油	180	262	167	150	—	—	—	—	100	167	—	—	—	456	946	—	—
	其他平均	299	189	251	404	—	—	155	—	155	196	275	113	105	655	844	500	352
總 平 均		463	280	314	307	201	128	203	141	183	168	148	125	150	463	525	497	591

備
考

1 △ハ18/1
2 ※ハ18/5

(二) 對策

インフレ對策トシテ現在措置シアルモノヲ列舉セバ概ネ左ノ如シ

- 1 不急不要資金ノ抑制
- 2 過剩物資買付ノ抑制
- 3 經理統制、給與統制
- 4 勞賃ノ抑制
- 5 物價統制
- 6 租稅ニ依ル吸收
- 7 金融機關網ノ整備、地場銀行ノ活用
- 8 金利引上、南方開發金庫ノ利鞘附與
- 9 貯蓄預金
- 10 郵便貯金ノ復活活用

- 11 富籤馬券
- 12 損害保險
- 13 煙草ノ増産
- 14 敵産（動産）ノ處分
- 15 軍支拂ノ振替制度
- 16 各種輕工業ノ振興

以上各段ノ對策ハ未ダ何レモ本格的、徹底的ノモノニ非ズトハ云々住民ハ元來貯蓄心極メテ薄ク預金ノ増加ハ極メテ成績不良ナル上、輕工業ノ振興モ漸ク緒ニ着キタルバカリニテ從來ノ物資ストツク漸減ノ今日トインフレ激化抑制ハ仲々容易ニ非ズト認メラル

三 南方開發金庫、一般銀行融資分野問題
 南方開發金庫ト一般銀行トノ融資分野ニ付イテハ從來兎角ノ

問題有リタルガ本年四月總軍ニ於テ差當リ左記ニ依ルコトト
シ融資實行上ノ具體的調整ハ現地ニ於ケル資金統制機構ノ運
用ニ依リ適當措置スルコトニ決定シ既ニ各地域ニ於テハ右ニ
準據シ借入先ノ指定等ニ依リ漸次所定ノ方向ニ沿ヒ之ガ調整
ヲ爲シツツアリ固ヨリ未ダ満足スベキ状態ニハ達シ居ラザル
モ地域ニヨリ特殊事情モ有リテ俄カニ完全ナル調整ヲ期シ得
ザルモノ有リ差當リ目下現地ニ於テ執リ居ル處理ニ委ネ置キ
一應ノ調整ヲ爲シタル後更ニ手ヲ加フルヲ可ト認メラル

記

一、南方開發金庫ハ軍政會計ニ對スル管上、開發資金（長期ノ
モノヲ主トス）ノ供給、一般銀行ノ貸出ニ俟ツコト不適當
ナリト認ムル特種貸付ヲ爲スノ外一般銀行ノ貸付所要資金
ノ補充ヲ行フモノトス

二一般銀行ハ一般商業金融、開發資金（短期ノモノヲ主トス）ノ供給並地方金融ヲ行フモノトス

備考

一、開發資金中ニハ運轉資金ヲモ含ムモノトス

二、開發資金中一年以内ニ其ノ融通ノ目的ヲ達成シ返濟ヲ爲シ得ベキモノヲ短期開發資金トシ其ノ他ハ之ヲ長期開發資金トス

但シ右期限ハ貸出ノ方法タル手形其ノ他ノ期限ノ長短ニ拘ラズ資金ノ本來ノ性質ニ依リ判斷スベキモノトス

（註）事業ノ性質上多額ノ設備資金ヲ必要トスルガ如キ事業ニ對スル資金ハ運轉資金ヲモ長期開發資金トス。・。・（多額トハ大凡二百萬圓トス）

附

南方占領地域金融機關状況

昭和十八年六月末現在

(單位千弗 盾 留比)

區 分		マ	ラ	イ	スマトラ	北ボルネオ	ジャワ	ビルマ	合 計
南方開發金庫	店 舖 數	1	3	5	2	1	12		
	預 金	53,105	10,150	0	148,050	2,497	213,802		
	(內銀行ヨリ)	(48,517)	(9,701)		(38,572)	(0)	(96,790)		
	貸 出	34,162	8,187	0	25,911	59,032	127,292		
	(內對銀行)	(0)			(8,000)	(26,800)	(32,800)		
一	店 舖 數	14	11	7	20	8	60		
	地 元 銀 行	32	1		74	5	112		
般 銀 行	日 本 側 銀 行	179,990	59,688	11,800	115,701	58,035	425,214		
	(內一般預金)	(67,838)	(12,304)	(2,533)	(48,502)	(26,230)	(157,407)		
	地 元 銀 行	87,411	833		50,857	2,260	141,361		
	(內一般預金)	(87,411)	(833)		(50,857)	(2,260)	(141,361)		
	計	267,401	60,521	11,800	166,558	60,295	566,575		
	(內一般預金)	(155,249)	(13,137)	(2,533)	(99,359)	(28,490)	(298,768)		
貸 出	日 本 側 銀 行	136,182	17,766	6,386	56,097	59,417	275,848		
	地 元 銀 行	18,815	109		23,409	1,352	43,685		
	計	154,997	17,875	6,386	79,506	60,769	319,533		
郵便貯金(新)		810	347	八月一日ヨリ開始	1,733	23	2,913		
備 考									

〔四〕敵産處理

敵産ニ付イテハ昨年八月ヨリ調査並ニ評價實施中ニシテ今年六月ニ完成ノ見込ナリ

現地ニ於テハ勸産ニシテ軍需上、開發上並ニ民生安定上必要ナルモノニ限り之ヲ處分シ別途保管金トシテ積立テアル外現在處分ヲ爲シタルモノナリ、専ラ調査評價ニ重點ヲ置キツ、アリ、敵産評價ニ付イテハ各軍ヨリノ報告ニ基キ總監部ニ於テ査定修正ヲ加ヘ居ルモノナルガゴム園、森林、礦山等之ガ利用價值ノ判定容易ナラズ評價從ツテ極メテ困難ナルモ現在一急務算セル處ハ百五十億圓ニシテ其ノ内詳ヲ示セバ左ノ如シ

石	油	二四億	
農	林	業	四〇（山林等）
交	通	一五	二九〇・三七億